

事後評価対象
河川事業概要

平成20年2月27日
河川部

目 次

1. 位置図	1
2. 事後評価対象河川事業一覧表	2
3. 事後評価対象事業の評価書	3

事後評価対象河川事業 位置図



事後評価対象河川事業一覧表

水系名	河川名	事業名	事後評価理由 (事業着手年度)	対応方針		
				今後の事業評価実施 の必要性	改善措置の必要性	同種事業の計画・調査の あり方や事業評価手法の 見直しの必要性
狩野川	来光川	河川災害復旧等関 連緊急事業	事業完了後、一 定期間(5年) が経過している 事業	なし	なし	なし

平成19年度 河川事業の事後評価書

事業名	来光川河川災害復旧等関連緊急事業	事業種別	河川災害復旧等関連緊急事業																														
河川名・水系名	狩野川水系来光川	事業主体	沼津河川国道事務所																														
所在地	静岡県函南町及び静岡県菟山町																																
工事着手	平成12年2月	用地着手	平成11年6月																														
事後評価実施理由	事業完了後、一定期間（5年）が経過している事業																																
全体事業費	約66億円（H18年度価格）																																
事業の目的	来光川では再度災害防止を目的として、河道整備を実施し、流下能力不足の解消を図る。																																
再評価の概要	<p>1. 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化</p> <table border="0"> <tr> <td>事業費</td> <td>着手時点</td> <td>約30億円(H18P)</td> <td>→</td> <td>完成時点</td> <td>約60億円(H18P)</td> </tr> <tr> <td>工期</td> <td>着手時点</td> <td>3年</td> <td>→</td> <td>完成時点</td> <td>3年+1年</td> </tr> <tr> <td>総便益</td> <td>着手時点</td> <td>約1215億円(H18P)</td> <td>→</td> <td>完成時点</td> <td>約1197億円(H18P)</td> </tr> <tr> <td>総費用</td> <td>着手時点</td> <td>約36億円(H18P)</td> <td>→</td> <td>完成時点</td> <td>約66億円(H18P)</td> </tr> <tr> <td>費用便益比</td> <td>着手時点</td> <td>33.8</td> <td>→</td> <td>完成時点</td> <td>18.1</td> </tr> </table> <p>2. 事業効果の発現状況 1/50確率規模で、被災人口は約3000人、被災世帯は約1000世帯、浸水面積は約209haの被害の危険性が解消された。</p> <p>3. 事業実施による環境の変化 多自然工法により環境保全が図られている。</p> <p>4. 社会経済情勢の変化 ・人口、世帯ともに増加傾向を示している。</p> <p>5. 対応方針（案） ○今後の事後評価の必要性 事業の効果の発現状況等から、再度の事後評価の必要性はない。 ○改善措置の必要性 事業の効果の発現状況等から、改善措置の必要性はない。</p> <p>6. 同種事業の計画・調査のあり方、事業評価手法の見直しの必要性 特に同種事業の計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性はない。</p>			事業費	着手時点	約30億円(H18P)	→	完成時点	約60億円(H18P)	工期	着手時点	3年	→	完成時点	3年+1年	総便益	着手時点	約1215億円(H18P)	→	完成時点	約1197億円(H18P)	総費用	着手時点	約36億円(H18P)	→	完成時点	約66億円(H18P)	費用便益比	着手時点	33.8	→	完成時点	18.1
事業費	着手時点	約30億円(H18P)	→	完成時点	約60億円(H18P)																												
工期	着手時点	3年	→	完成時点	3年+1年																												
総便益	着手時点	約1215億円(H18P)	→	完成時点	約1197億円(H18P)																												
総費用	着手時点	約36億円(H18P)	→	完成時点	約66億円(H18P)																												
費用便益比	着手時点	33.8	→	完成時点	18.1																												